

(別添 4)

【大館市】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 . 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

大館市の教育が目指すものは、「ふるさとを担う『未来大館市民』の育成」である。

そのために、子どもたち一人一人が、他者の個性を認め共感しながら、個々の能力を結集し、協働して課題解決に挑む「共感的・協働的学び合い」を実践してきている。

これは、令和の日本型学校教育の「協働的な学び」と志を同じくするものであり、そこに ICT を活用した「個別最適な学び」を取り入れることで、一人たりとも置き去りにしない授業をさらに確かなものにするためのツールとして捉えている。

この ICT という「学びのツール」を使って、子ども同士の「つながり」を基盤としながら、人と人との「つながり」を円滑にすることを通して、児童生徒が視野を広め学びの力を高めていくことを目指している。

2 . GIGA 第 1 期の総括

令和 2 年度、市内全 25 校に 1 人 1 台端末の整備と無線ネットワーク環境を整備しており、各教室や特別教室、体育館などからインターネット接続、学習・授業支援ソフト、AI 型ドリルを利用しているほか、他校や外部とのオンライン交流にも利用している。

また、インターネット接続を利用することから、情報モラル教材を利用し、児童・生徒の Net モラルの醸成を図った。

令和 5 年度、電子黒板の増設に併せてオンライン協働学習・授業支援ソフトを導入し、教師と児童・生徒の双方向でのやり取りが可能になり、ICT 機器が授業に欠かせないものとなっている。

指導する教職員側も研修会を開催するなど、事例や課題の共有を図るとともに、更なる利活用に向けて取り組んでいる。

GIGA スクール構想第 1 期を総括して、現行の 1 人 1 台端末は持ち帰りを想定していなかったため学校内でしか利用できないこと、最低限のスペックであったためディスク容量不足による不具合が頻発したこと、高度なプログラミング学習などの処理には向かないこと、3 年程度を過ぎるとバッテリーの劣化が激しく電源アダプターで利用すること、学校間で活用頻度に差があることなど、多くの課題が明らかになった。

次期更新では、コスト面での縛りはあるが、市の運用に必要な十分なスペックの機種を選定することが重要であり、学校間での活用頻度の差の解消に取り組む必要があると感じている。

3．1人1台端末の利活用方策

GIGAスクール構想第1期で1人1台端末の利用が定着してきましたが、学校間で利活用に差をあることから、指導者側である教職員のスキル向上のためにも、継続して研修会や授業実践事例等の情報共有を行うとともに、児童・生徒用とは別に指導者用端末を整備して利用しやすい環境を整え、オンライン授業などで積極的に利活用するためのサポートを実施していきます。

大館型授業＝共感的・協働的な学び合い（響学）の中で、児童・生徒の1人1台端末の更なる利活用を進めるため、ネットワークを見直して持ち帰りを可能とし、家庭でも日常的に利用できるようにすることを目指します。また、不具合が発生した場合に代替できる予備機を整備することで、児童・生徒の学びを止めない利用環境を整えとともに、協働学習・授業支援ソフト、AI型ドリルなどの更なる利活用により「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実につながるよう努めます。

また、不登校児童・生徒や特別な支援を要する児童生徒に対しては、オンラインでの授業配信や相談活動など、実態に応じて1人1台端末を活用した支援の方法を検討しながら進めていきます。

急速に変化している情報化社会の中にあってICTの利活用は必須であり、ICTを利用するための基礎でありルールを知るためにも、児童・生徒の1人1台端末の整備・更新は必要と考えており、次期更新では更に利用しやすい環境を整備して更新するものです。